



日本のまんなか
水と緑といで湯の街渋川市

平成 30 年 7 月 第 2 回 市長 定例 記者 会見

- ・ 日時 平成 30 年 7 月 9 日 (月)
午後 1 時
- ・ 場所 市役所本庁舎第 2 応接会議室

- 1 道訓前遺跡出土縄文土器の pari 日本文化会館特別展「縄文」への出品について (資料 1)
- 2 金井遺跡群活用事業見学会・シンポジウム
「古墳人からなにが見えるか」の開催について (資料 2)
- 3 市内の道路沿線にある民家のブロック塀緊急点検の実施結果について (資料 3)
- 4 自治会館のブロック塀緊急点検の実施結果について (資料 4)
- 5 「エンディングノート」の発行について (資料 5)

その他資料提供

- ・ 土砂災害セミナーの実施について (資料 6)
- ・ 「渋川市くらしの便利帳 2018」の発行について (資料 7)
- ・ 市長との対話集会の開催について (資料 8)

○次回開催予定

日時：平成 30 年 7 月 17 日 (火) 午後 1 時～
場所：本庁舎第 2 応接会議室



資料1

担当：教育部文化財保護課埋蔵文化財係 太田国男 電話0279-52-2102 内線8245

件名：^{どうくんまえ}道訓前遺跡出土縄文土器のパリ日本文化会館
特別展「縄文」への出品について

1 内容

当市の道訓前遺跡（北橘町上^{かみはこだ}箱田^{やけまち}地内）で出土し国の重要文化財に指定されている縄文土器39点のうち2点の「焼町土器」の深鉢形土器が、現在開催中の東京国立博物館の特別展「縄文ー1万年の美の鼓動」に出品されておりますが、この2点のうち1点が、この特別展を再構成してフランスのパリ日本文化会館で開催される特別展「縄文」（仮称）にも出品されることになりました。

2 出品先の展示概要

(1) 現在開催中の展示

- ・名称 特別展「縄文ー1万年の美の鼓動」
- ・場所 東京国立博物館
- ・期間 平成30年7月3日（火）～9月2日（日）
- ・主催 東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
- ・出品数 約200点、うち当市からの出品数2点

(2) 今後出品される展示

- ・名称 特別展「縄文」（仮称）
- ・場所 パリ日本文化会館
- ・期間 平成30年10月17日（水）～12月8日（土）
- ・主催 国際交流基金、文化庁、東京国立博物館
- ・出品数 約50点、うち当市からの出品数1点

3 出品土器

別紙写真参照

- ①東京国立博物館特別展後、パリ日本文化会館特別展に出品される土器
- ②東京国立博物館特別展のみで出品される土器

参考

^{どうくんまえ}道訓前遺跡

縄文時代中期（約4,500～5,500年前）の集落遺跡。赤城山南西麓の台地上に位置し、標高は320m～330mほど。平成8年度～9年度にかけて行われた発掘調査（調査面積3,415㎡）で竪穴住居跡40軒、土坑264基が調査され、多数の遺物が出土した。

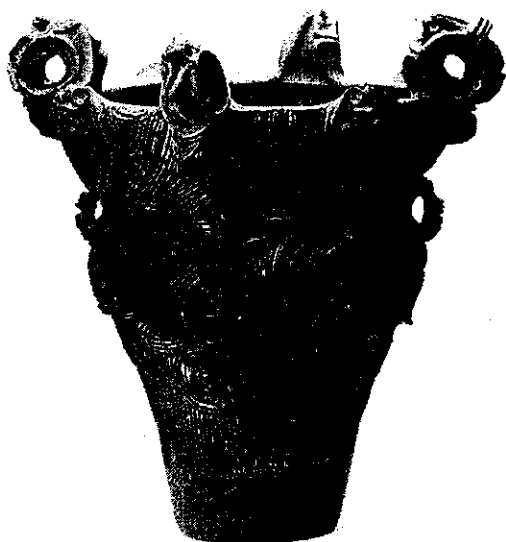
道訓前遺跡出土品（国指定重要文化財）

上記の調査で出土した縄文時代の資料のうち、土器・土製品45点、石器・石製品117点が平成19年6月8日に国の重要文化財に指定された。これらの特徴づけるのは、立体的な渦巻き文や耳状の突起があり、保存状態のよい縄文土器群であり、このうち土器9点が「焼町土器」と呼ばれている。

焼町土器

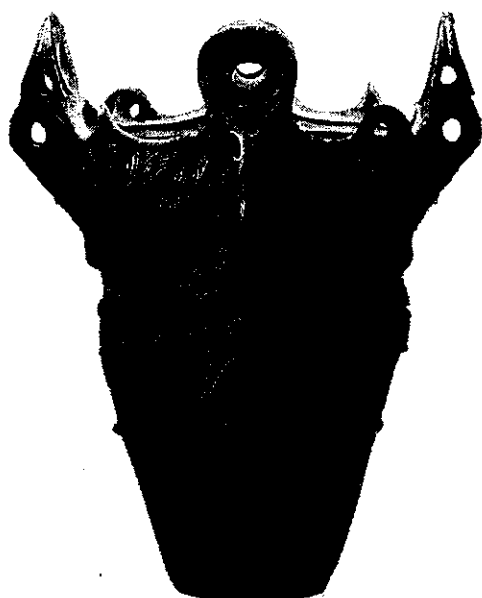
縄文時代中期、長野県東部から群馬県西部にかけての限られた地域に分布する、装飾性の高い土器群。長野県での代表的な出土例として川原田遺跡（御代田町）出土品が挙げられ、今回の展示（東京国立博物館）にも出品されている。

写真①



国指定重要文化財「群馬県道訓前遺跡出土品」のうちの1点
深鉢形土器 器高62cm
東京国立博物館特別展後、パリ日本文化会館特別展に出品

写真②



国指定重要文化財「群馬県道訓前遺跡出土品」のうちの1点
深鉢形土器 器高78cm
東京国立博物館特別展のみの出品

道訓前遺跡出土縄文土器の海外展示履歴

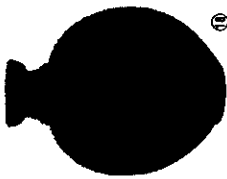
年度	期 間	場 所	名 称	展 示 概 要	出 品 数	主 催
18	H18.5.16 ~ H18.10.15	モントリオール考古歴史博物館(カナダ)	日本	旧石器～古墳時代の考古遺物	93件	東京国立博物館、モントリオール考古歴史博物館
21	H21.9.10 ~ H21.11.22	大英博物館(イギリス)	土偶	縄文早期～弥生中期の土偶及び関連資料	67件	文化庁、東京国立博物館、大英博物館
30	H30.10.17 ~ H30.12.8	パリ日本文化会館(フランス)	縄文	縄文時代の出土遺物全般	約50件	国際交流基金、文化庁、東京国立博物館



縄文
1万年の美の鼓動
特別展
10,000 Years of Prehistoric Art in Japan
JOMON

晩期

前1000~前400年



⑩ 壺形土器
青森県十和田市滝沢川原出土
文化庁蔵



⑪ 土偶
青森県十和田市滝沢川原出土
文化庁蔵



⑫ 土製銅鏡
東京都葛飾区下新田遺跡出土
江戸考古学センター蔵

後期

前2000~前1000年



⑬ 土偶 中空土器
北海道札幌市東区南野遺跡出土
北海道博物館蔵(国指定重要文化財(国指定重要文化財))
青森県小川町蔵



⑭ 土偶 全身土器
東京都中央区本所2丁目出土
東京都立考古学博物館蔵
(江戸前縄文文化センター・墨川縄文館蔵)



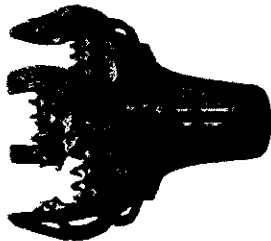
⑮ 土偶 仮面の女神
東京都中央区本所2丁目出土
東京都立考古学博物館蔵
(江戸前縄文文化センター・墨川縄文館蔵)



⑯ 陶形土器品
青森県十和田市滝沢川原出土
青森県立博物館蔵

中期

前3000~前2000年



⑰ 火焔紋土器
東京都十和田市 釜山遺跡出土
青森県十和田市 十日町南遺跡(国指定重要文化財)
青森県小川町蔵



⑱ 土偶 縄文の女神
東京都中央区本所2丁目出土
東京都立考古学博物館蔵
(江戸前縄文文化センター・墨川縄文館蔵)



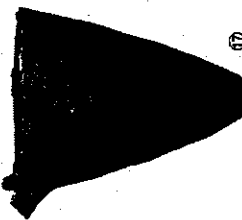
⑳ 縄文土器
東京都中央区本所2丁目出土
東京都立考古学博物館蔵



㉑ 木製縄履(縄文ボシエツト)
青森県 三内山遺跡出土
青森県立博物館蔵

前期

前4000~前3000年



㉒ 土器 土器
① 丹波口付深鉢形土器
MUSEUM OF ANTIQUITIES, OSAKA
個人蔵

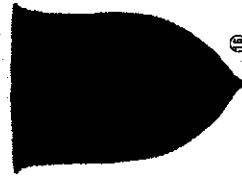
縄文の美

が 集結

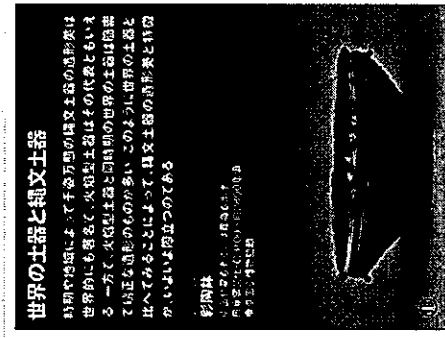
縄文時代のはじまりからおわりまで、
日本列島の北から南まで、時代・地域を超えて

早期

前7000~前4000年



⑬ 土器 土器
MUSEUM OF ANTIQUITIES, OSAKA
個人蔵



世界の土器と縄文土器

初期や中期によって千島列島の縄文土器の造形は、世界的にも恐らく、水船型土器はその代表ともいえる。一方で、大抵土器と同時期の世界の土器は造形では多様な造形のものが多い。このように世界の土器と比べていることによって、縄文土器の造形美と特徴がいよいよ立派になる。

彩陶社
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-5561-1111

縄文時代とは？

旧石器時代が終わったおおよそ1万3000年前から約1万年間続いた時代を縄文時代と呼ぶ。その名称は、縄目の文様をもつ土器が使われたことに由来する。縄文時代の始まりに少し遅れて氷期は終わりを迎え、日本列島は温暖で湿潤な気候に変わり、現在と同じ山や森そして川や海といった景観が姿を現す。当時の人びとは、この多様な自然環境を利用し、狩猟や漁撈そして植物の採集を基本的な生業として定住生活を行った。また土器や石器といった実用的な道具に加え、装身具そして土偶や土器といった儀礼の道具などを作り出した。



②
国五
土偶
縄文のディオニソス

長野県茅野市 縄文博物館出土
縄文時代(中期)・約3000~約2000年
長野・茅野市川原(茅野市出土縄文考古学館蔵)
国五登録(7月31日)(次)→8月22日(日)

「縄文のディオニソス」の名にふさわしい力強くも柔らかな曲線美は、縄文時代の人びとの女性美の理想を築いたかのよう。土偶は安産や子孫繁栄を祈るために作られたと考えられているが、まさにその祈りを体現したかのような土偶である。

集結 国宝全6件、縄文美の極致

縄文時代の国五は、
現在、わずか6件。
初めて、
そのすべてが
集結する

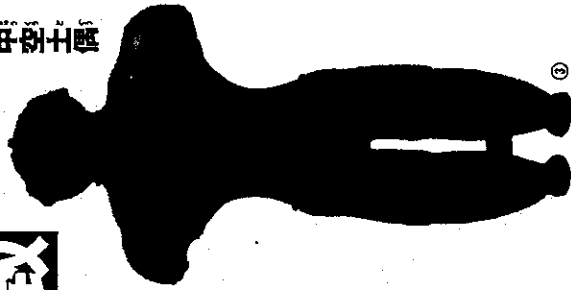
縄文時代の土偶のなかには当時の人びとの思いを凝縮的に伝えるしぐさや行為を著したものがしばしば見られる。本例は膝を立てて振り、胸の前で両手を合わせるその姿から、「合掌土偶」と呼ばれ、祈りの姿そのものとも評されている。

長野県八戸市 縄文博物館出土
縄文時代(前期)・約2000~約1000年
長野・八戸市黒八戸(縄文文化センター黒八戸縄文館蔵)

⑤
国五
土偶
合掌土偶



③
国五
土偶
中空土偶



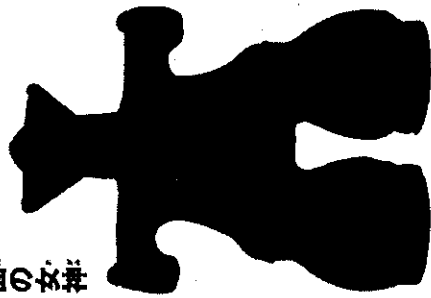
胴部から足先まで中空で薄手に形作られた体や全身を飾る精緻な文様は、照耀した土器作りの技術を巧みに応用したものといわれている。全身が現存する中亞土偶のなかで最大を誇り、北海道唯一の国宝でもある。

北海道厚岸町 厚岸内陸遺跡出土
縄文時代(前期)・約2000~約1000年
北海道厚岸町(厚岸町縄文文化伝承センター蔵)
国五登録(7月31日)

10,000 Years of JOMON

「八咫貴美人」と評され、堂々たる正面顔と先鋭的な印象を与える側面顔との差異が際立ち、現代美術に匹敵する造形美ともいわれる。他方、首を絞める性表現を仰えることで、その神秘性を高める工夫を凝らしている。

④
国五
土偶
縄文の女神



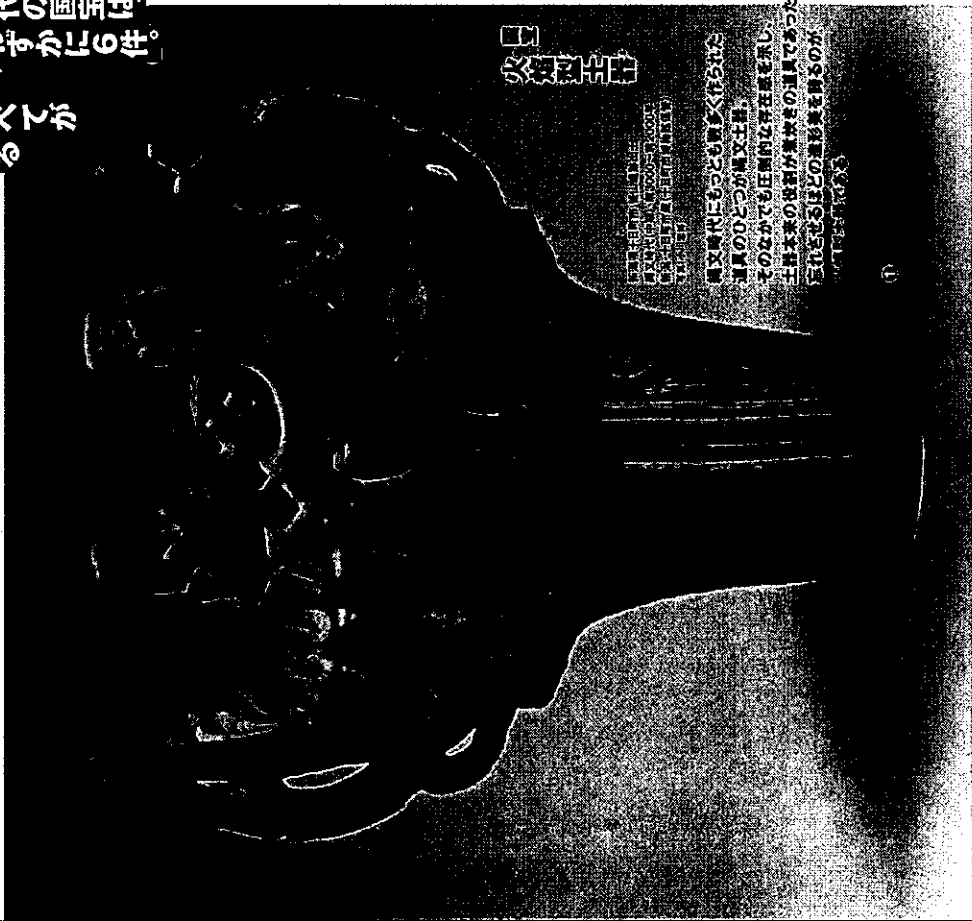
④
国五
土偶
仮面の女神

長野県茅野市 茅野遺跡出土
縄文時代(前期)・約2000~約1000年
長野・茅野市川原(茅野市出土縄文考古学館蔵)
国五登録(7月31日)(次)→8月22日(日)

顔の表現が仮面をつけたような土偶は一般に仮面土偶という。なかでも一層大きく隆起した本例は、「仮面の女神」と呼ばれている。重と考えられる土坑群の一つから出土した「仮面の女神」は、死者への瞑想と再生を祈るために埋納されたと考えられている。

①
国五
土偶
火焔土偶

縄文時代にもっとも数多く作られた土偶のひとつが縄文土偶。そのなかでも圧倒的な存在を築き、土器本来の性質がその土質であったことが忘れらるほどの造形美を誇るものが「火焔土偶」である。



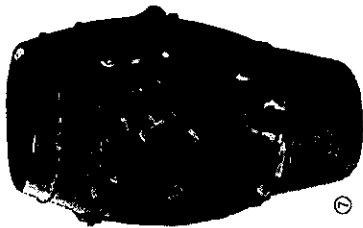
Prehistoric Art in Japan



縄文文化財
人形 薬師付有孔 鈿付土器

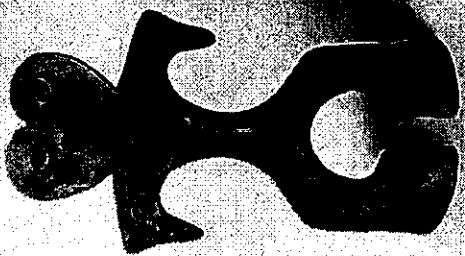
器面に表現されたかわいらしい人形が目をひく土器である。ときに人や動物を表現することによって、土器は美なる器器としてだけではなく、折りの道真としての役割も担った。

山出遺跡(アノクス市 縄文時代前期) 約3000~前2000年
縄文時代(前期) 約3000~前2000年
山出アノクス市 縄文時代前期



縄文時代の折りの形を代表する土偶に加えて、当時の人びとの思い溢れる造形を紹介する

祈りの美



縄文文化財
ハート形土偶
群馬県高崎市 十勝内2遺跡出土
縄文時代(前期) 約2000~前1000年
個人蔵

「透光土器」と並んで人気の高い土偶の一つが「ハート形土偶」。ユーモラスな顔がハート形をなすことから、その名がつけられた。器面にデフォルメされた、巨眼や体の表現は美みを際う。

縄文文化財
猪形土製品

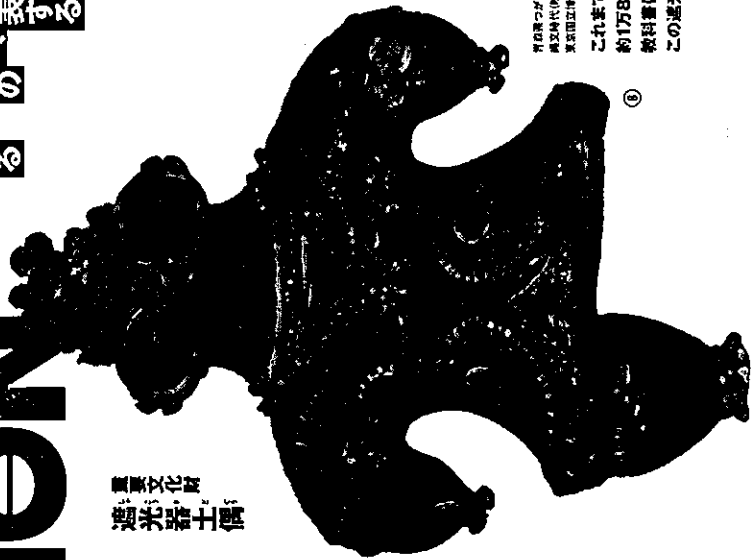


群馬県高崎市 十勝内2遺跡出土
縄文時代(前期) 約2000~前1000年
群馬県立博物館蔵

イノシシをはじめ、縄文時代にはしばしば動物を造った土製品が作られた。このような動物形土製品には、動物そのものもつづ方を畏れ敬った当時の人びとの思いが濃縮されている。

竹田遺跡(アノクス市 縄文時代前期) 約3000~前4000年
縄文時代(前期) 約1000~前4000年
東京国立博物館蔵
これまで縄文時代の遺跡からは約1万8000点以上の土器が出土しているが、軟料層にも登場するこの透光土器が最も著名な土偶といえるだろう。

縄文文化財
透光器土偶



⑥

くらしの美

祖先として必要な機能だけでなく、素材の質感や美しさを備えている。折原に磨きあげた尖頭器は、後世、素材が石から骨や象牙に変わってもその形は不変であった。

長野県佐久市 折原遺跡出土
旧石器時代(後期) 約1万6000~前1万1000年
個人蔵 (長野・伊那市 折原遺跡)



縄文文化財
尖頭器

素材の特性を生かして作られた、美しさと温かみを感じさせる一品。新石器時代の丈夫で、軽く扱いやすいため、さまざまな生活の場面で用いられた。発見された時、中にはクルミが隠っていた。

東京都三ツ山遺跡出土
縄文時代(中期) 約5000~前2000年
東京都立考古学博物館蔵(縄文時代前期)

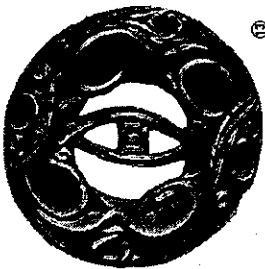
縄文文化財
木製 縄籠 縄文ホシエット



⑫

⑫は、複製品番号です。

縄文時代の人びとが身近な素材で作った温かきや力量強さを紹介する



縄文文化財
土製 耳飾

東京都高崎市 下市田遺跡出土
縄文時代(後期) 約4000~前400年
江戸国立博物館蔵

花井にもたとえられる、優美な流し彫りをもつ土製の耳飾。耳飾の多くは女性に、身に著けたと考えられ、年齢や出自を表し、それに応じた役割や権利を示すためのものともいわれている。



深鉢形土器

⑬

山出遺跡(アノクス市 縄文時代前期) 約3000~前2000年
個人蔵



顔面把手

山出遺跡(アノクス市 縄文時代前期) 約3000~前2000年
個人蔵

岡本太郎「縄文の美」の発見

日本では、明治時代になって大森具塚(東京都品川区・大田区)の発掘をきっかけに考古学が始まり、「縄文」が見えられた。この、考古学が発見した「縄文」とは異なる縄文の建力を見出したのか、芸術家・岡本太郎(1911~1996)。「芸術は、発見よ！」という念を込めて知れた面に「思わず叫びたくなる喜び」を辿り、彼が考える「芸術の本質」に深く傾きかけかけたか、ト・ハウで出会った縄文土器だったのである。

開催主旨

今から約1万3000年前、氷期が終わりに近づいて温暖化が進み、入り江や干潟が生まれ、現在の日本列島の景観が整いました。この頃に日本では土器作りが始まります。縄文時代の幕開けです。当時の人びとは、自然環境を生かして狩猟や漁撈、採集による生活を営んでいました。彼らが日々の暮らしのなかで作りに出した、土器や石器、土偶や装身具などのさまざまな道具は、力強さと神秘的な魅力にあふれています。

躍動感あふれる「火焔型土器」やユニークな姿形をした「遠光器土偶」は、縄文時代の造形美を象徴するものとして広く知られていますが、1万年続いた縄文時代には、まだまだ知られていない多彩な造形が数多くあります。

本展では「縄文の美」をテーマに、縄文時代草創期から晩期まで、日本列島各地で育まれた優品を一堂に集め、その形に込められた人びとの技や思いに迫ります。縄文時代1万年にわたる壮大な「美のうねり」をぜひご覧ください。

展示会のみどころ

01

縄文の 国宝・重要文化財、 大集合!

縄文時代の遺跡は、これまでに9万件を超える数が確認されていますが、数多ある縄文時代の出土品のなかでも国宝はたったの6件。造形の極みともいえるこの6件すべてが、初めて勢ぞろいします(7月31日[火]~9月2日[日])。さらに、教科書でもおなじみの「遠光器土偶」、温かみを感じさせる「木製籬籠(縄文ポシェット)」、縄文時代の人びとの身を飾った色鮮やかで優美な「土製耳飾」や「赤漆塗櫛」などの重要文化財をはじめ、縄文時代を代表する優品を一堂に集めて、トータルならでの演出をご紹介します。

02

「縄文の美」を かつてない規模で 紹介

縄文時代は約1万年ものあいだ続き、東西3000kmを超える日本列島に広く展開しています。本展では縄文時代のスケール感をそのままに、その始まりから終わりまで、北は北海道から南は沖縄までを取り上げ、かつてない規模で「縄文の美」を紹介し、その移り変わりや広がり、そして奥深さを体感していただきます。縄文人が生きたために生み出した簡素ながらも力強い形、森や海への感謝や命への敬いのなかで作られた神秘的な形に、ただただ圧倒されてください。

03

いま、 注目の高まる 「縄文」

縄文土器や土偶に見られるダイナミックな造形は、世界的に見ても独創的なもの。1950年代に岡本太郎らが芸術的価値を見出したといわれる「縄文の美」は、近年再び注目され、評価が高まっています。自然保護や自然との共生、デザインやファッション、地域活性化のコンテンツなど、さまざまな切り口で親しまれるようになってきています。また、土器や土偶に「かわいい」「おもしろい」「楽しい」を見つけ出したことにより、SNSでの紹介も活発になり、一層、私たちの身近な存在となってきています。

特別展「縄文—1万年の美の鼓動」 JOMON: 10,000 Years of Prehistoric Art in Japan

2018年7月3日(火)~9月2日(日)

TNM 東京国立博物館 平成館 (上野公園)
TOKYO NATIONAL MUSEUM(UENO PARK)

開館時間 午前9時30分~午後5時
※全曜・土曜日は午後9時まで、
日曜日および7月16日(月・祝)は午後6時まで
※入館は閉館の30分前まで

休館日 月曜日、7月17日(火)
ただし7月16日(月・祝)、8月13日(月)は開館

主催 東京国立博物館
NHK
NHKプロモーション
朝日新聞社

協賛 凸版印刷



観覧料(税込)	当日券	前売券	団体券
一般	1,600円	1,400円	1,300円
大学生	1,200円	1,000円	900円
高校生	900円	700円	600円

※中学生以下無料
※団体は20名以上
※障がい者とその介護者1名は無料(入館の際に障がい者手帳などをご提示ください)

●チケット取り扱い: 東京国立博物館正門チケット売場(窓口、開館日のみ。閉館の30分前まで)、
展覧会公式サイト、各種プレイガイド。

●前売券販売期間: 4月3日(火)~7月2日(月)

**お得な早割2枚セット券=2,200円(税込)を
3月1日(木)~4月2日(月)販売!**
展覧会公式サイト、各種プレイガイドで販売。
詳細は公式サイトの子チケット情報ページでご確認ください。

展覧会公式サイト <http://jomon-kodo.jp/>

お問合せ 03-5777-8600(ハローダイヤル)

報道関係
お問合せ

特別展「縄文」
広報事務局(共同PR内)
担当:三井、安田、副島

TEL: 03-3575-9823 / FAX: 0120-653-545

E-mail: jomon-kodo-pr@kyodo-pr.co.jp

〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル7階

資料2

担当：教育部文化財保護課埋蔵文化財係 萩原俊樹 電話0279-52-2102 内線8245

件名：金井遺跡群活用事業見学会・シンポジウム 「古墳人からなにが見えるか」の開催について

1 概要・目的

平成24年11月、金井東裏遺跡で甲を着た古墳人が発見され、全国的に注目を集めました。今回、その発見された古墳人とその古墳人が身につけていた甲・冑等に焦点を当てた見学会とシンポジウムを開催します。

見学会では、群馬県埋蔵文化財調査事業団に協力を仰ぎ、金井東裏遺跡の現地見学と群馬県埋蔵文化財調査事業団創立40周年記念展示「金井東裏遺跡展」で展示される古墳人骨や甲等を見学します。

また、シンポジウムでは、金島ふれあいセンターにおいて、古墳人骨や甲等の発掘調査・分析から得られた情報を基に、人骨考古学や火山学、古墳時代の武具の研究者らを招聘し、基調講演とパネルディスカッションを開催します。

この事業を通して、市民を始めとする多くの方々に金井東裏遺跡で発見された古墳人の人物像や火砕流によって被災した状況、当時の人々の生活や社会に思いを巡らせていただき、併せて渋川市の埋蔵文化財が持つ歴史的価値への理解を深めていただくことを目的とします。

2 見学会

- (1) 日 時 平成30年8月19日(日) 9時20分から12時まで
- (2) 場 所 金島ふれあいセンター → 金井東裏遺跡周辺 → 群馬県埋蔵文化財調査センター発掘情報館 → 金島ふれあいセンター
- (3) 参加費 無料
- (4) 定 員 50人
- (5) 内 容 群馬県埋蔵文化財調査事業団職員による解説付きの見学会。
市所有バスで金井東裏遺跡周辺を見学した後、群馬県埋蔵文化財調査事業団創立40周年記念展示を見学します。
※見学する金井東裏遺跡は、現在工事中で発掘調査は行われていません。調査された古墳や祭祀などの位置が、看板によって表示してあります。

3 シンポジウム

- (1) 日 時 平成30年8月19日(日) 13時から16時35分まで
- (2) 場 所 金島ふれあいセンター ホール
- (3) 参加費 無料
- (4) 定 員 300人
- (5) 内 容 講師3名による基調講演とパネルディスカッション
- (6) 講 師 舟橋 京子 氏 (九州大学大学院比較社会文化研究院講師、元金井東裏遺跡出土甲着人骨等調査検討委員会委員。
金井東裏遺跡の発掘時には、田中良之教授を中心とする九州大学の調査チームの一員として調査・分析に参加。群馬県による「よみがえれ古墳人プロジェクト」では、古墳人骨の展示、複顔像の制作などについて指導・助言を行った。人骨考古学。)

早田 勉 氏 (火山灰考古学研究所所長、群馬大学及び前橋工科大学非常勤講師、元金井東裏遺跡出土甲着裝人骨等調査検討委員会委員。金井東裏遺跡の発掘ではテフラ分析を担当。群馬県による「よみがえれ古墳人プロジェクト」では、再現映像制作における火山災害の状況などについて指導・助言を行った。火山学。)

内山 敏行 氏 (公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター整理課副主幹、元金井東裏遺跡出土甲着裝人骨等調査検討委員会委員。群馬県による「よみがえれ古墳人プロジェクト」では、甲冑の復元について指導・助言を行った。古墳時代考古学。)

(7) コーディネーター

右島 和夫 氏 (群馬県立歴史博物館館長、元金井東裏遺跡出土甲着裝人骨等調査検討委員会委員長。金井東裏遺跡の発掘では、調査検討委員会の委員長として調査にあたっての指導・助言を行った。群馬県による「よみがえれ古墳人プロジェクト」では、総括責任者として複顔像、復元人物像・甲冑、CGを駆使した再現映像の製作に携わった。古墳時代考古学。)

- 4 主 催 渋川市 渋川市教育委員会
- 5 共 催 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 6 後 援 群馬県 群馬県教育委員会
- 7 協力機関 群馬県立歴史博物館
- 8 申込方法 見学会のみ電話で申込み (定員50人、超えた場合は抽選)
・申込期間 7月13日(金)～7月27日(金)
※土日祝日を除く8時30分～17時15分まで
※シンポジウムは申込み不要
- 9 問合せ先 渋川市教育委員会文化財保護課

資料3

担当：建設部土木管理課土木管理係 加藤宏幸 電話0279-22-2117 内線4731

件名：市内の道路沿線にある民家のブロック塀 緊急点検の実施結果について

本点検は、平成30年6月17日（日）午後3時27分頃発生した地震で渋川市赤城町において震度5弱を観測したのに続き、平成30年6月18日（月）午前7時58分頃大阪府高槻市を震源とした、最大震度6弱の地震により、高槻市立寿栄小学校のプール壁の倒壊事故を受け、市独自で市内の道路沿線にある民家のブロック塀について、緊急点検を実施することとし、その実施結果をお知らせします。

1 点検内容

- (1) 市内の道路に面しているブロック塀について、目視により、ブロック塀の簡易点検を行いました。
- (2) 該当箇所全容の把握を行いました。

2 点検を行う路線

- (1) 幹線道路 1級路線（51路線・128km）
 2級路線（84路線・136km）
- (2) その他路線（通学路を含む。）

3 点検実施期間

平成30年6月21日（木）から6月29日（金）まで

4 点検結果

今回の緊急点検により危険と判断されたブロック塀は、1・2級路線に面したブロック塀1,301箇所中、11箇所に認められた。（平成30年6月22日（金）正午現在）

その他路線に面したブロック塀6,947箇所中、66箇所に認められた。（平成30年6月29日（金）16時現在）

5 今後の対応

著しく危険と判断されたものについては、家人が在宅していた場合はその場で説明済みであり、不在の場合は、後日説明を行う。

資料4

担当：市民部市民協働推進課自治活動支援係 小野宏仲
電話0279-22-2463 内線4315

件名：自治会館のブロック塀緊急点検の実施結果 について

本点検は、平成30年6月17日（日）午後3時27分頃発生した地震で渋川市赤城町において震度5弱を観測したのに続き、平成30年6月18日（月）午前7時58分頃大阪府高槻市を震源とした、最大震度6弱の地震により、高槻市立寿栄小学校のプール壁の倒壊事故を受け、市独自で市内にある自治会館のブロック塀について、緊急点検を実施したので、その実施結果をお知らせします。

1 点検内容

- (1) 市内にある自治会館のブロック塀について、目視により、ブロック塀の簡易点検を行いました。
- (2) 簡易点検により該当箇所全容の把握を行い、再調査が必要と考えられるブロック塀を建築住宅課と再点検を行いました。

2 点検実施期間

平成30年6月21日（木）～7月4日（水）まで

3 点検結果

今回の簡易点検により調査した自治会館178箇所中、28箇所にブロック塀があり、再調査が必要と考えられるもの6箇所が認められました。

再調査が必要と考えられるもの6箇所を建築住宅課と再調査した結果、危険と判断されたブロック塀は、4箇所に認められました。（平成30年7月4日（水）現在）

4 今後の対応

危険と判断されたブロック塀については、自治会長に説明済みです。なお、自治会所有の自治会館の危険なブロック塀の撤去費については、補助金を検討中です。

資料5

担当：保健福祉部高齢福祉課高齢福祉係 灰田真紀 電話0279-22-2257 内線1236

件名：「エンディングノート」の発行について

- 1 目的 市民の3割以上が65歳以上という高い高齢化率の中、「現在は健康であるが、今後病気等により自分の希望するように医療や介護が受けられるのか不安だ。」「家族に伝えておくことをまとめておきたいがどのようにしたらよいか分からない。」という市民の声が最近、多数聞かれるようになってきました。

また、市においては、福祉サービス等の申請が提出される際には、既に高齢者が自己判断できなくなっていてサービスの提供の進め方が難しい事例が散見されるようになってきています。

これらの現状を踏まえ、住民サービスの向上と地域包括ケアシステムの円滑な運営に資するため、エンディングノートの発行を行いました。

- 2 内容 市が株式会社ホープ(住所：福岡県福岡市中央区薬院1-14-5)との官民協働事業として、発行を行いました。

(株)ホープが、終活に関連する事業者等に対して広告枠を設けて資金を調達することによってエンディングノート(冊子)を作成し、それを市が契約に基づいて無償にて提供を受けたものです。

自治体が官民協働事業によってエンディングノートを発行するのは、群馬県内においては初めてとなります。

来年度以降も、内容の充実を図りながら発行を続けていきたいと考えます。

- 3 事業概要 今回は、初年度となるため1000部を発行し、希望者には高齢福祉課の窓口で配布します。今後、介護予防事業等の講座・イベントなどや、今年度から8箇所設置した地域包括支援センター職員等が高齢者宅を訪問する際などに、説明を行った上で希望者に配布していく予定です。また、終活に関する市民の活動団体等と連携し、エンディングノートを有効に活用していただけるよう講座等の開催などの事業を行っていききたいと考えます。

資料6

担当：総務部防災安全課防災係 齊藤章吉 電話0279-22-2130 内線2185

件名：土砂災害セミナーの実施について

- 1 目 的 本格的な夏を迎え、突然の雨や雷・竜巻の発生が多くなる時期となることから、土砂災害に関する知識や備え、災害発生時の対応要領について学び、災害時犠牲者ゼロを目的とする。
- 2 開催日時 平成30年7月29日（日）13時30分から15時30分まで
- 3 会 場 渋川公民館（講堂）
- 4 内 容 講演会
演 題：土砂災害から身を守る
講 師：小金沢照昌（総務部防災安全課 防災専門員）
※自然災害体験車による疑似体験（13時から16時まで）
- 5 募集人数 70名
- 6 申 込 み 電話による事前申込み（防災安全課 0279-22-2130）
（当日参加も可）
- 7 参 加 費 無料
- 8 事業の概要 土砂災害から「命」を守ることを目的に、土砂災害に関する知識を身につけ、災害の発生に備えていただくための講演会を開催するほか、自然災害体験車による体験学習を行う。
- 9 主 催 渋川市（総務部防災安全課）

資料7

担当：総合政策部新政策課シティプロモーション係 須田 仁美
電話 0279-22-2182(直通) 内線2414

件名：「渋川市くらしの便利帳2018」の発行について

- 1 内 容 市役所での各種手続きや、防災情報など市民生活に密着した情報をまとめ、効率よく情報提供を行うことで市民サービスの向上を図ることを目的として発行する冊子、「渋川市くらしの便利帳2018」が完成しました。
発行については、(株)サイネックスが広告主を募集し、その費用で発行を行ったため、作成に係る市の費用負担はありません。
- 2 発行概要 (1) 作成部数 36,000部
(2) 発行 平成30年6月
(3) 業務分担
渋川市 行政情報・地域情報の提供、転入者への配布など
事業者 広告募集活動、紙面編集、印刷製本、全世帯配布など
(4) 掲載内容
渋川市ガイド 渋川市の魅力を紹介
特集「渋川で、『ほっと』」
行政ガイド いざというときに、届出・証明、出産・子育て・教育、各種相談など
生活ガイド 医院MAP、医師会、歯科医師会、薬剤師会、商工会議所、商工会など
- 3 発行者 渋川市
株式会社 サイネックス
- 4 広告販売 株式会社 サイネックス 群馬支店
- 5 広告掲載者数 165企業・団体
- 6 配布方法 7月中旬～8月上旬に、(株)サイネックスにより、市内全世帯(約32,200世帯)にポスティング方式(郵便受けに直接投函)で配布します。また、本庁舎市民課及び各行政センターにおいて約2年間、転入者に配布します。
- 7 電子書籍化 市ホームページにPDFデータを掲載するほか、(株)サイネックスホームページ(<http://www.scinex.co.jp/>)で電子書籍版を配信します(8月10日配信予定)。

資料8

担当：総合政策部新政策課シティプロモーション係 須田仁美
電話 0279-22-2182 内線2413

件名：市長との対話集会の開催について

1 目的

市民参加のまちづくりを進め、市長が市民の皆さんとの直接の対話を通じて身近なまちづくり施策に市民の声を反映させることを目的に年に数回、毎年開催しています。

今回は今年度3回目の開催で、渋川市中央公民館を拠点に文化活動にに取り組んでいる団体の皆さんと対話集会を行います。

2 開催概要

【第3回】

- (1) 開催日時 平成30年7月12日（木）午後2時（概ね2時間程度）
- (2) 開催場所 中央公民館 講義室
- (3) 参加団体 平成29年度中央公民館演技発表会運営委員会、平成29年度中央公民館定期利用団体作品展運営委員会の皆さん

参考：今年度の実施結果

【第1回目】

- ・実施日時 平成30年5月22日（火）午後2時～4時30分
- ・実施場所 小野上公民館 講義室
- ・実施団体 渋川・北群馬地区更正保護女性会小野上支部、おのがみレディースクラブ、小野上小学校PTA、小野上地区子ども育成会連絡協議会、マンマ・おのがみ
- ・参加者数 15名

【第2回目】

- ・開催日時 平成30年5月29日（火）午後2時30分～4時30分
- ・開催場所 子持公民館 第1学習室
- ・実施団体 子持地区生涯学習フェスティバル実行委員会、渋川市子持地区民生委員児童委員協議会
- ・参加者数 10名

市長の主な週間日程

月 日	時間	件 名	場 所	所 管
7月9日(月)	9:00 終了後	庁議 第5回渋川市人口減少対策本部会議	第1応接会議室 第1応接会議室	新政策課 新政策課
	13:00	定例記者会見	第2応接会議室	新政策課
	16:00	夏の県民交通安全運動・一斉街頭指導	市民会館前	交通政策課
7月10日(火)	9:30	中部農業事務所 訪問	前橋合同庁舎	農林課
	13:30	渋川地区防犯協会定期総会	渋川警察署	市民協働推進課
	16:30	しぶかわ桜まつりフォトコンテスト表彰式	第二庁舎205会議室	都市計画課
7月11日(水)	10:00	渋川市男女共同参画推進懇談会	大会議室	市民協働推進課
	11:00	渋川市地区赤十字有功会総会	第1応接会議室	社会福祉課
	14:00	渋川・吾妻地域在来線活性化協議会総会	大会議室	交通政策課
	16:00	2018年非核・平和のための行進	第2応接会議室	市民協働推進課
7月12日(木)	10:00	長寿者顕彰(2名)	市内	高齢福祉課
	14:00	対話集会(渋川地区)	中央公民館	新政策課
	19:00	渋川山車まつり第2回実行委員会	大会議室	観光課
7月13日(金)	10:00	2018年原水爆禁止 国民平和大行進	第二庁舎もみじサロン	市民協働推進課
	15:00	上信自動車道建設促進期成同盟会総会	自由民主党本部	土木管理課
	16:00	国土交通省・財務省への要望活動	国土交通省・財務省	土木管理課
7月14日(土)	13:30	群馬県埋蔵文化財調査事業団40周年記念式典・講演会	前橋テルサホール	文化財保護課
7月15日(日)	10:00	しぶかわ「昭和の車 展示会」in スカイテルメ渋川	スカイテルメ渋川	観光課
	13:00	渋川市文化協会茶道部茶会	中央公民館	生涯学習課
7月16日(月)				
7月17日(火)	9:00	庁議	第1応接会議室	新政策課
	13:00	定例記者会見	第2応接会議室	新政策課
	15:00	渋川広域圏における建設業に係る行政懇談会	プレヴェール渋川	土木管理課
	16:30	群馬県道路協会渋川支部役員会・通常総会	プレヴェール渋川	土木管理課